



冬の木に想う

木

草野 心平

葉っぱを落とした
冬の木はいい
はだかの木々のすがたはいい
ごつごつした古い木などはとくにいい
強くておちついていてじつにいい
霜柱にかこまれて
寒さのなかにたっている
はだかの木々の美しさ

枝々や幹のなかを
力が流れているような気がする
夢がいっぱいつまっているような気がする。
白いほのおが燃えているような気がする

葉を落としつくして、春まではだかで過ごす冬の木。それは「はだか」で、「ごつごつした」一見、枯れ木とも思える寂しい姿ですが、作者はその姿をほめたたえます。次に冷たい「霜柱」や「寒さ」のなかに立ち続けるその姿を美しいとたたえます。そのすばらしさ、美しさは決して見た目だけの美しさではありません。むしろきれいに見せるような飾りをすべて捨て去った後にはっきりとする、地味ではあるが、どっしりとした強さや、厳しい状況にも耐えるたくましさに支えられたすばらしさであり、美しさなのです。

でも、この詩は冬の木の見た目の美しさだけを語っているわけではありません。作者はその木を透視するかのよう、木の内側にひそむものをぐいぐいと取り出して描きます。木の中を流れる「力」や、木の中にいっぱいにつまった「夢」。そして燃えている「ほのお」は、はだかの枝々が空に向かって、ゆらめき伸び立つ姿であると同時に、その中にすけて見える、きりっとしたたくましい生命力のようなものを描いているように思います。

さらに、それは冬の木を描いているだけでなく、人間もこうありたいと考える作者の願いも描いているのではないのでしょうか。

この作品に描かれている「木」は、まさしく今のみなさんの姿かもしれません。思春期を迎え、いろいろな悩みや葛藤を抱えている人も少なくないとは思いますが、春の訪れない冬はない。これから訪れる春に、自分らしい新しい芽や葉を出し、そして花を咲かせるために、今はしっかりと力をたくわえる時期なのだと思います。

果たして、これからみなさんはどんな「木」に育っていくのでしょうか。

【スキー移動教室 生徒作文①】

□B組 Y S 「大きな成長の三日間」

私は三日間のスキー教室でいろいろな経験を通して成長することができて、楽しい思い出になりました。

初日はとても寒くてスキーを楽しいと思えませんでした。生活の中でもやることが多くて帰りたいと思ってしまいました。けれど友達と一緒にするのは楽しくて、このときの自分の感情を分かち合える仲間がいることに喜びを感じました。そこからは時間がたっていくのが悲しくて、友達と過ごしながら自分の心情の変化に気づくことができました。私は室長だったので、自分の仕事を忘れないようにして班をまとめることを心掛けました。部屋の中では意見がぶつかることもあったけれど、一人一人が意識して生活することができました。

二日目以降はスキーがとても上達してスキーをすることの楽しさを覚えました。最初は不安がたくさんあったけれど、滑れるようになって寒さも忘れるくらいでした。最終日が近づくにつれて終わってしまう寂しさを感じました。一人ではつまづいてしまうことも、班の人と支え合ってスキー教室を無事に終えることができました。

この三日間でスキーがうまくなる成長や、仲間との支え合いの成長、学年での成長など、初日と比べるとずいぶん変わったと感じます。私たちの成長に関わってくれた方々にとっても感謝しています。きっと私たちだけでは作れなかったと思います。その周りの方々の支えに気付けたのも成長なのだと思います。

スキー教室に行く前と行った後ではずいぶん変化したと思います。だからこれからはもっともっと成長できるように普段の生活から意識していきたいです。

□来週の予定

月/ 日(曜)	行事予定	備考
2/ 9 (月)		
2/10 (火)		
2/11 (水)	建国記念の日	
2/12 (木)		
2/13 (金)	各種委員会	

